

システム情報工学研究科特定課題研究報告書概要

年 度	平成 21 年度	学位名	修士 (ビジネス)
専 攻	経営・政策科学	専攻	著者氏名 盛 欣
指導教員氏名	高安 雄一		
報告書題目	ベンチャー企業の創業と発展に関する研究 (ベンチャー企業の産学官連携に関する研究)		
報告書概要	<p>本章では、日本のベンチャー企業の産学官連携について、これまでの先行研究が企業や大学の視点から考察したものが多かったのに対し、ヒアリング調査と既存アンケート調査に基づいた分析により、行政、公的研究機関、公的支援機関といった「官」の視点から補い、より総合的な考察を行った。</p> <p>最初に、先行研究を踏まえ、企業側と大学側から見た産学官連携の成果と課題について考察し、大学発ベンチャーとベンチャー支援の現状についても述べた。</p> <p>次に、ヒアリング調査の結果を考察し、企業と大学を結びつける「官」（行政）及び産学連携を支援する「官」（独立行政法人）から見た産学官連携の現状と課題を明らかにした。それで、産学官の三方の視点から見たベンチャー企業の産学官連携の主な課題として、人材の不足、成果実現の困難、組織の壁、評価システムの不健全という4点を挙げた。</p> <p>また、既存アンケート調査を分析し、ベンチャー企業が様々な創業支援策を積極的に活用していることから、支援機関も産学官連携において大きな役割を果たしていると述べた。</p> <p>そして、ドイツの産学官連携の成功要素として、産業化しやすい技術シーズを生み出す研究環境（アン・インスティテュート）、大学に密接した起業支援機関（イノベーションセンター）と政府の大学に対する明確な方向付けと支援（EXISTプログラム）を挙げた。</p> <p>最後に、これまでの考察を踏まえ、今後の日本ベンチャー企業の産学官連携の方向性について人材面、成果実現面、組織面、評価システム面、支援面の5つの方面から提案を取りまとめた。</p>		
審査日	平成 22 年 2 月 3 日		
審査員	(大学名 職名)	(学位)	(氏名)
主査	筑波大学 教授	理学博士	佐藤 亮
副査	筑波大学 准教授	Master of Science in Financial Economics	高安 雄一
副査	筑波大学 准教授	博士 (理学)	原田 信行